

京 都 帝 國 大 學 經 濟 學 部 內 東 亞 經 濟 研 究 所

年 四 回 (二 月 五 月 十 二 月) 發 行

東 亞 經 濟 論 叢

第 二 卷 第 一 號
昭 和 十 七 年 三 月

特 輯 南 方 經 濟 號

南方經濟の基本問題……………	經濟學博士	谷口吉彦
最近佛領印度支那幣制に於ける 二つの改革……………	經濟學博士	松岡孝兒
比島資源價値の進展……………	經濟學士	淺香末起
ビルマの資源と産業と貿易……………	……………	大場忠
インドの農産資源……………	文學士	岡崎三郎
濠洲經濟事情……………	……………	宮崎亮
農業投資植民地としての蘭領インド……………	經濟學士	北野健二
印度支那 ^{ける} に於けるフランスの經濟政策……………	經濟學士	河野健二
日本經濟と南洋貿易……………	經濟學士	松井清
南方纖維原料の生産について……………	經濟學士	岡部利良
南方ゴム資源と其の對策……………	經濟學博士	谷口吉彦
南方資源論……………	經濟學博士	蜷川虎三

附 錄 南 方 文 獻 目 録

書 肆 有 斐 閣 發 賣

(特 輯 號)

比島資源價値の進展

淺 香 末 起

—

大東亞戰爭勃發後二旬餘にして早くも比律賓首都マニラは皇軍の占領するところとなり、全群島の完全占領も時日の問題となつた。比島はバシー海峡を隔て、臺灣と一葦帶水の間であり、南方諸國中最も我國に近接せる割には、從來世界一の老大資源國たる米國の政策にカムフラージされて、我國民には其資源的價値があまりはつきりと知られて居なかつた。しかし實は比島は最近米國ですら認識を更める程の重要資源を多種多量に埋藏して居るのである。皇軍占領まで比島は周知の如く一九四六年七月四日の完全獨立に至る過程として比律賓聯邦 (Commonwealth) 政府の治下にあつた。しかし大東亞戰爭が勃發しなかつたと假定しても比島が果してタ・マ法の規定する前記期日に至つて完全獨立國となるか否かは大に疑はしいものとなつて居た。元來比島獨立の約束は虚榮心の強い比島人の自惚れる如く自力によつて闘ひとつたものではなく、米國は其利害の打算より許與したものである。米國は情勢の變化により其利害關係が一變し、比島保有の必要を更めて再認識すれば、何時にても此約束を取消す用意を怠つて居ないし、現に比島の經濟情勢をして米國より離脱せんとして能はざる如き方向に誘導し

つゝあつたのである。之には米國による比島の新なる資源的價値の認識が他の政治的・軍事的原因と共に大に與つて力あるのである。

米國が比島に獨立を約束するに至つた原因が決して彼の標榜する如き人道主義や自由の精神のみに基くものではなく、純然たる經濟的原因、即ち利害の打算によることは既に常識となつて居る。従つて米國は若し比島に獨立を與へずして即ち在來の自治領的現状のまゝに比島の米國に對する政治的・軍事的價値を保持し乍ら、經濟上の利害を調整し得るならば躊躇なく其道を選ぶに至つたであらう。然らば獨立許與の經濟的原因は何であつたかと云へば、

第一に移民問題である。日本人・支那人其他のアジア人は移民として完全に米國より閉め出されたのであるが、比島人だけは屬領民たるの故を以て米國に移民として入國する。一九二〇年—二九年に年平均一萬一千名の比島人移民の入國があつたことになつて居る。此移民が米國人労働者の高い生活水準を引下げる一因となり、此處に比島移民排斥運動の勃發を見た。此移民を米國労働市場より振り拂ふことが獨立の約束を與へるに至つた一因である。タ・マ法では比島移民を年五十人に制限することによつて此目的を達成した。しかも此制限は完全獨立後に實現せられるのではなく、獨立準備過程のコンモンウェルス政府の成立と同時に、即ち尙ほ比島人が米國に對して忠誠を誓ひ、米國の支配權が強力に残つて居る時に、早くも實行せられるに至つたのである。かゝる手段によつて移民制限の目的を達した上は、移民問題のみの看點からは米國は最早比島に完全獨立を與へる必要はないわけである。完全獨立を與へることによつて移民制限を移民禁止にまで強化し得るとしても、それは僅に五

十人の問題である。他に比島保持を必要とする充分なる情勢が醸成しつゝある際に、年五十人の移民を排除するために完全獨立を與へる必要もあるまい。況んや完全獨立後に於ても比島人の米國に對する關心と友情とを繋ぎとめるためには、年五十人程度の移民入國は存續せしめねばならないであらうと云ふ事情が有するに於てをやである。かくの如く移民問題と完全獨立とは最早別個のものとなつたのである。比島が獨立準備期間經過後米國より離脱すると否とに拘らず、米國は比島人移民の煩累より免れてしまつて居るのである。

二

第二に産業投資の問題がある。之は次に述べる貿易の問題と聯關するのであるが、米國人殊に其老なる金融竝に産業資本家にとつて在來の比島の有する魅力は云ふに足らざるものであつて、比島領有のため必要とする直接間接の經費を償ひ得なかつた。米國が比島領有を決定する當初、議員の多數は比島に對して全く認識を有せず、其所在地すら知らなかつたと云ふ程であつた。かゝる有様にて米國資本家も積極的に比島の産業に投資し之を開發せんとする熱意を欠いで居た。米國人の比島への産業投資は、比島側から見れば重要なものであるが、それはスペイン人や華僑の投資と比べてさまで卓越せるものではなく、これ等と寧ろ同列に見らるべきものであり、政治的偏見さへ除けば、邦人の企業投資とも必ずしも比肩し得られざるものではない。況んや米國側から見れば殆んど取るに足らないものであつて、正確なる數字は不明であるが大體總額二億弗餘と見積られ、これも最近は如何にして有利に比島より引揚ぐべきかに焦慮せる有様であつて、僅か此程度の投資を保護するために比島を領有することの不利を説く論者も絶えなかつた。米國は其本土が世界一の資源に恵まれ、比島に依存せざれば

得られない何物もなかつた。唯從來唯一つ投資企業の上より米國を比島に結びつけたものはゴムであつた。世界ゴム生産量の過半を消費する米國も、ゴムに關する限り英・蘭等のゴム生産國に供給を仰がねばならない。曾てゴム相場の昂騰期に、米英ゴム戦争が如何に深刻に行はれたかは周知の通りである。此不利を脱却するため米國は幾度となく自國領土或は勢力圏内にゴム栽培計畫を樹てた。フロリダ地方、パナマ地帯等も考慮され、或はブラジルのパラ州に廣大な土地を買收し、アフリカのリベリヤ共和國にも其計畫は及んだ。しかし自領内の計畫は自然條件の制約と技術上の看點より失敗に歸し、其他の計畫も其後のゴム相場暴落による産業資本家の採算外れの結果、ブラジルの一部を除き自然消滅の形となつた。比島に於ては北半はゴム栽培に不適地であるが、南半殊にミンダナオ島は米國領土中最良のゴム栽培適地である。米國はここをゴム自給地とする希望を抱いたのであるが、獨立許與は少くとも此地方に關する限り此希望達成と相容れない。茲に於て曾て比島を二分しミンダナオ、スルー等を含む南半だけを屬領として留保し、ここにゴムを植え、北半を獨立せしめんとする案が議會に提出せられたこともあつた。此案は一つは民族問題とも關聯し、南方が北方に比べて民族の特異性大であり、獨立を要望するフィリッピノの各種正系種族の圏外にあることも一因をなしたのである。しかし此案もゴムの下落によつて立消えとならざるを得なかつた。とに角投資企業の見地より比島は米國に領有を堵する程の價値を與へなかつた。

三

第三は貿易關係である。比島經濟の生死の鍵を握るものは米比自由貿易であると云はれた。一九〇九年十月五

比島資源價値の進展

第二卷 七四 第一號 七四

日、米比間自由貿易制確立され、比島内に栽培生産又は製造された凡ての貨物は米本土輸入に當り無税とし、精製品は外國産原料含有二割以下の場合に限り無税とした。但し米を無税品より除き、又砂糖は三十萬噸、葉巻は一億五千萬本、巻煙草及填煙草は三十萬封度を限ることとしたが、後一九一三年のアンダーウッド關稅法によつて米も無税とし、砂糖・煙草の無税數量制限も撤廢された。米國品の無税比島輸入は云ふまでもない。

米比自由貿易の結果は比島貿易に占むる米國の割合を躍進的に増加せしめたことは云ふまでもない。一九〇九年上半期末に至る八年間に比島の輸入に於て一五・六%、輸出に於て三七%を占むるに過ぎず、輸入に於ては英國及佛印にすら抜かれて居た米國は自由貿易の結果斷然群を抜いて左の如く獨占的地位を占むるに至つた。

年 度	比島貿易に占むる米國の割合	
	輸入總額に於ける比率	輸出總額に於ける比率
一九一〇年	四〇%	四二%
一九一五年	五三%	四四%
一九二〇年	六二%	七〇%
一九二五年	五八%	七三%
一九三〇年	六四%	七九%
一九三二年	六五%	八七%
一九三五年	五七%	七九%
一九三七年	五八%	七九%
一九三九年	六八・二%	七六・七%

此表によつて知られることは米國は輸出共壓倒的地位を占めるのであるが、殊に比島輸出品の宛先としての地位が輸入品の仕出國としての地位よりも重大なことである。一九一五年頃だけは例外的に其關係は逆であつたが、其以前に於ても引續き米國は比島に對して入超を續け、其以後に於ては殊にさうである。比島が一九三八、九年頃入超となる以前、連年相當巨額の出超を

示したことを照合すれば米國は随分よく比島商品を買付けたものである。もとより米國は比島を其輸出市場としても相當に利用して居るのであるが、精々一億數千萬ペソ見當の比島への輸出は米國の輸出總額から見れば殆んど問題ではなく、又其發展の見込も乏しく、東洋市場に於ても日・支兩國に比べてその市場的價値は遙に低いのである。もとより比島人にすればこれが其生活の向上、アメリカ化による享樂の増加にとつて不可欠の要素たることは云ふまでもない。

要するに比島經濟は米國が比島生産物を氣前よく無税で買つて呉れることによつて成立つて居ると云つても過言ではない。一體南洋諸國中仲繼貿易によつて生きて居る海峽植民地を中心とするマレーと、その經濟圏に含まれる英領ボルネオの三保護領を除いては、比島租住民の經濟生活が對外貿易に強く依存するところは無い。此事は一人當りの貿易額を見れば直に理解せられるであらう。一九三九年の南洋各地貿易額を人口概數にて割れば左の如くなる。

英領馬來	約二七〇海峽弗	(人口を五百萬と概算、一九四〇年は殆んど四〇〇弗)
英領ボルネオ	約一〇〇海峽弗	(人口八十萬、但アルネイを除く)
比律賓	約三五ペソ	(人口一千四百萬)
ビルマ	約四六留比	(人口一千五百萬)
蘭印	約一八值	(人口七千萬)
タイ	約一九錢	(人口一千七百萬)
佛印	約二四ピアストル	(人口二千四百萬)

一人當り三十五ペソは邦貨換算七十三圓以上となる。比島に次ぐビルマが邦貨換算五十數圓なると比べても餘

程大であり、蘭印、タイ、佛印等は遙に及ばない。此貿易の大半が前述の如く米國を相手とせるものであり、比島人の生活に喰ひ入つた米國の影響は牢として抜くべからざるものがある。比島ヘラルド年鑑一九三六年版に「一九三三年の比島農場、工場、森林及鑛山の全生産額は四億六千五百萬ペソで、其うち二億二千三百萬ペソ餘即ち四八・二％は輸出された。そのうち八八・二％生産總額の四二・四％が米國に輸出された」とある。

比島の對米輸出は比島にとつては命の綱にも等しいものであつた。一方之を米國側より見れば總金額こそ米國にとつてさまで大きなものではないが、之が米國の産業資本にとつて大きな問題となる理由があつた。椰子油、マニラ麻、殊に砂糖に於て然りであつた。比島の産業は前述の如く米國の投資によつて成立したのではなく、米國が無税で大量に比島商品を買ふことによつて成立して居る。殊に比島輸出の大宗たる砂糖にとつては米國は掛替のない市場である。米國は周知の如く世界一の大砂糖消費國であるが、其供給源は大體三つに分れる。(一)米國內の主として南方諸州の甜菜糖、(二)玖馬甘蔗糖、(三)ハワイ、比島等屬領の甘蔗糖である。此等のうち國內糖は勿論、ハワイ、玖馬糖等は何れも米國農業資本家の投資によつて成立せるものであり、殊に玖馬糖の如きは名義上は外國糖と云ふものゝ實際は十數億弗に達する米國資本の支配するところである。しかし兎に角外國産糖なるが故に他の外國糖に比較すれば特惠及び拂戻しによつて五〇％見當の優待を受くるものゝ相當の關稅を負擔して居る。然るに比島糖は米國資本の支配の外にあり乍ら、屬領の故を以て無税で輸入せられる。比島よりの砂糖の年輸入額百萬瓊内外は米國資本が砂糖限産協定を更改して、玖馬の生産制限を少しく緩和することによつて容易に代替し得るところである。故に米國側から見れば金をかけて大切に育てた愛兒である玖馬糖が、さまで

親しみのない寧ろ憎まれ子たる比島糖のため日蔭の身にされることになる。國內産の甜菜糖までが脅威を受けるに至つては益々耐へ難いことである。マニラ麻、椰子製品等に於ても稍々低い程度に於て同様のことが云へる。かくて米國産業資本家にとつては比島に獨立を與へることによつて此の桎梏を免れんとする要望が抑へ難いものとなり、之が米國の政界を動かし、殊に南部農産地方を主たる地盤とする民主黨が政權を掌握したときは比島獨立の機運が促進せられ、現に民主黨政府の下に於て獨立の約束が與へられたのである。又其以前に於ても一般に民主黨の下に於て比島自治は促進せられ、自治の全般的基礎を創成した一九一六年のジョーンズ法(Jones Bill)の如きも民主黨政府の下に於て實現したのであるが、共和黨の治下に於ては寧ろ比島自治は其發展を妨げられたのである。例へば一九二一年共和黨政府より比島事情調査のため派遣せられたウッド及びマオーブスを主とする委員の報告(Wood-Forbes Report)は「合衆國が比島より撤退するは比島人に對する不信、米國に對する不幸、進歩の過程に於ける明白なる逆轉、我國民的義務の許すべからざる懈怠であり、比島に於て米國が權力を伴はざる責任の地位に置かるゝが如きは之を避けざるべからず」との意味を述べて居る。かくの如く比島獨立許與の機運は決して比島に同情を有せるものゝ側より起らずして、寧ろ之を嫌惡し排斥するものゝ側より起つたのである。比島に獨立を與へることによつて米國はその農業家の首に石臼の如く吊下つて居る厄を拂ひのくべきであるとして上院議員は公言した。

かくの如く比島獨立許與の最大の原因は貿易上にあり、比島商品を米國市場より驅逐又は制限するための地ならしをすること、之が主要動因であつた。そして米國は比島獨立の約束とからませて此目的を遺憾なく達成し得

る準備を完了したのである。即ち十ヶ年の獨立準備期間は椰子油年二十萬噸、麻年三百萬封度、砂糖年八十五萬噸（原糖八十萬噸、分糖蜜五萬噸）までは従前通り無税輸入するが、完全獨立後は當然外國品扱ひとなる。しかし十ヶ年の後半、即ち六年目からは比島側で輸出税をかけ、その率は六年目に於て米國が外國品に課する税率の五%とし、年々五%宛引あげ、十年目には二五%となる。十一年目からは無論米國側で一〇〇%の輸入税をかけるわけである。此輸出税の收入を以て比島は米國に對する債務を濟崩しに返濟する義務を負ふ。即ち此方法によつて米國は貿易上の厄を免れ、更に比島領有時代の財政上の失費を回收せんとする一石二鳥の効果をねらつたのである。此目的さへ達すれば實は獨立は米國にとつて餘り好ましいことではない。

四

タ・マ法の規定が比島に對し支拂ひかねる程の高價を要求するものなることは其後次第に明となつて來た。此代價は實に比島の存立の基礎を危ふからしめる程のものである。比島は名を得て實を失ふこととなる。尤も比島側でも此困難を切抜けるための色々の工作は行つて居る。國産愛用、工業化運動を主たる内容とする所謂ネバ運動（國家經濟保護協會）を強化し、比島經濟を比島人によつて自立せしめんと期して居る。しかし何と云つても比自由貿易の斷絶は前に繰返し述べたところによつて比島經濟にとり致命的である。之を放任してなされるあらゆる工作は結局彌縫策に過ぎず、要するに源を養はずして水利を圖ると同様である。獨立尙早論、再檢討論はかかる情勢の中より起るべくして起つて來た。しかも之こそ米國の狙ふところである。比島が獨立の熱意に燃へて周到なる打算を怠れる間隙に乗じて米國は獨立の空名を與へて自己の經濟上の要望を達成したのであるが、比島

がその代償に耐へかねて米國への政治的依存關係の復活を懇願するならば、米國は凡ゆる恩着せがましき態度を以て、實は内心欲求を新にした從屬關係を維ぎとめることが出来る。而して此新しい從屬關係は比島の要望によつてやむなく許與したものであると云ふ美名をつかみ、舊來の從屬關係が比島心の意思に反して欺瞞的に奪取したものであると云ふ惡名を拭色し去ることが出来る。勿論此場合比島に多少の經濟的恩惠を施す必要はあらうが、それは最早決して在來の自由貿易の復活ではなく、米國農業資本家の利益を比島農産物に對して充分に防護し得る範圍内に於て比島商品に幾分の優待を與へる程度であらう。砂糖の如き比島が米國の屬領として止まつたとしても最早八十五萬噸の制限は動かし難きものであり、稅率に於ても玆馬糖程度以上の優待は與へないで濟ませるであらう。何れにしても米國は獨立の代償の峻嚴さをほのめかしただけで自己の經濟上の目的の大半を達成し得るわけである。尤も比島は未だ完全獨立を正式に斷念したわけではなく、ケソン大統領は所定の期日には飽くまで獨立を達成すると公言して居るが、大勢は獨立延期論に傾かざるを得ない情勢は刻々と醸成しつゝあつたのである。會て獨立運動に挺身して居た頃ケソンは「吾人は米國による天國の統治よりも比島人による地獄の統治を欲す」と叫んだが、經濟的理由より獨立を約束せられた比島人が經濟的情勢の變化を振りかへつたとき自己が米國の經濟力によつて動きのつかないまでに金しばりになつて居たことを見出したのである。比島人は今こそ獨立と云ふ如き民族の誇るべき大事業が單に經濟上の取引に似たる手段を以て達成せられるものではなく、そこに崇高な精神的要素の不可缺なることを痛感すべき機である。

五

比島人側に於て經濟的利害打算の看點より獨立延期論や再檢討論が擡頭しつゝある一方、米國側に於ても比島領有を繼續することを必要とする情勢が成熟して來た。之には一つは漸次險惡化する國際情勢のさ中にあつて、東洋に於ける唯一の米國の屬領を軍事上政治上の基地として利用すべき必要が増大したと云ふ理由もあるが、其外に經濟的に比島の價値が米國より再認識せられるに至つたことを看過し得ない。

前述の如く比島領有放棄の機運は米國農業資本家の利害によつて促進されたものであるが、更に彼等をして自己の利益のために領有權をすら放棄せしめんとする決意を抱かせた直接の動機は、先年の世界的農業恐慌であつた。然るに其後の農業景氣の漸進的回復は比島農産物の競争をさまで意に介せざるに至つた。且又世界情勢の變化は自國産業の一部門の消極的防衛のために切角の比島統治を放棄することを再検討せしめんとする機運を促進するに至つた。

米比双方の此種の要望は相寄つて先づタ・マ法の緩和を協定するに至らしめた。かくて先づ米比貿易に關する調査研究の目的を以て「比律賓問題共同準備委員會」が米比双方の委員によつて組織され、その報告竝に勸告が基礎となつて法案が米國議會に提出され、多少の修正を経て一九三九年八月通過、同十月比島一般投票の賛成を得て經濟調整法が成立した。之によれば比島側の熱望を容れて遞増輸出税賦課は取りやめとなり、砂糖についてはタ・マ法の規定する年八十五萬噸の無税取扱量は其まゝ獨立準備期間を通じて承認せられ、コブラ、麻は數量の制限なく、硬質纖維製品は大體年六百萬封度まで無税の取扱を受けることとなつた。又一九四〇年對米輸出に付き無税の取扱を受ける基本數量を、葉卷煙草（兩切を除く）二億本、椰子油二十萬噸、屑煙草及同葉四百五十萬

封度、眞珠貝ボタン八十五萬グロスとし、この品目はタ・マ法に規定せし如き遞増賦税は免れたが、唯右割當量を一九四一年以降完全獨立まで毎年五%宛遞減することとした。

尙ほ新法によれば獨立後の米比貿易調整に關する勸告案の作成は、獨立日より二年前に米比間に會議を開いて決定することとした。此の規定はタ・マ法の一年前とある規定を改正したもので、米比間の交渉に充分の餘裕を與へ、表面は比島をして獨立の代償を緩和せしめるための折衝期間を延長せしめるもので、米國の比島に對する好意の一表現と見られるが、事實は之によつて既に熟成せる比島人の對米依存の氣持を益々強化し、比島をして少しも早く利害の最終的判斷をなさしめ、之を米國の陣營につなぎとめんとするものである。

六

かく推斷する理由のうち最も重要なものは比島の資源の價值比重の變化である。比島にあつては近隣の南洋諸國同様農業が諸産業中壓倒的優位を占めて居る。然も農業と雖も住民の生活必需農産物よりも輸出向きの熱帯特

比島四大輸出品の總輸出に占むる比率	
砂糖	四〇・九%
椰子製品	二三・八%
麻及網具	一一・五%
煙草	五・九%
四品計	八二・一%

比島資源價値の進展

殊農産物に重點がある。成る程耕地面積から云へば何と云つても米が第一位を占め總耕地約一千万エーカー中略半は米田が占めて居る。しかし此耕地を以てしても米作技術の拙劣のため住民の需要を充たすに足らず相當米の輸入を見る。米輸入の比較的少かつた一九四〇年でも八萬三千餘噸に達し、普段は二千萬噸見當を常例とする。かく比島の農業は輸出向

き農産物に主力が注がれ、砂糖、椰子製品（コブラ、椰子油）、麻及綱具、煙草が四大輸出品で此四品で一九三九年右の如く總輸出の八二・一％を占める。

此等熱帯性特殊農産物が比島輸出の大半を占めることが、米國をして比島を不用不急のものと斷する一因となつたのであるが（尤も其中でもマニラ麻の如きは米國にとり必需性頗る大であるがこれだけで比島領有の牢固たる決心をつなぎとめる程の力はない。）、最近に至つて米國は政治的軍事的價値再認識以外に經濟的にも比島に埋れたる資源の新たな價値を發見したのである。それは鑛産資源である。しかも比島各種鑛産資源の中には米國に不可缺にして自給し得ざるものがある。米國が大東亞より遮斷せられて不如意となる必需物資は多々あるが、その中ゴム、錫、規那が主なるものとして擧げられる。之は南洋諸國の世界産額に占むる獨占度が特に高く（ゴムの九〇％以上、錫六〇―七〇％、規那九〇％見當）しかも米國內では全く或は殆んど産出せざるものなるがためであつて、此三種以外にも東亞に依存せざれば米國の軍需産業に大きな缺陷を與へる幾多のものがある。しかしそれが餘り人目を惹かないのは米國內でも或程度の産額があり、然らざるも米國以外南北兩米大陸より相當補給を受け得るか、又は南洋特産にしても其必需性があまり高くないためである。しかも實は其中に米國の老なる需要量と照合すれば前記三種にも劣らざる重要不足資源がある。鑛産物について見れば、例へばタングステンは米國も世界第三位の産額を有し、世界産額の一割弱を占めて居り、南米のボリビア、アルゼンチンにも多少の産出があるが、しかも世界第一位の支那、第二位のビルマに依存しなければ到底その大需要を充たし得ない。アンチモニーにあつても、ボリビア、メキシコ等自國勢力圏内の産額では不足し、どうしても支那より供給を受けねばならない。しかし此

兩種は比島では今日のところ未だ問題にならないが、比島の諸鑛産物中米國の垂涎措く能はざるものはクロム、マンガ、銅であらう。

尤も今日まで比島に於ける鑛産物中最も金額大なるものは金であつて之は古くから採取されて居たが、一九三三年頃より飛躍的に増産を見、ゴールドラッシュを現出した。其後連年産額を増加し一九三九年には一百万オンスを突破し、七千二百餘萬ペソの産出があつた。此外銀も同年百七十五萬ペソの産出あり、兩者合せて邦貨換算一億五千五百萬圓見當となり、全比島鑛産物の八七%を占めて居る。現在金鑛區としては北部ルゾンの山岳州殊にペンゲット地方を主要なるものとし、之に次いでマスパテ島であり、又南部ルゾンの砂金、其他各地に金鑛區がある。金は云ふまでもなく世界經濟機構が振動せる間は金融爲替基金として大きな價值を有するが、金に食傷せる米國、しかも今日の如き世界情勢の下に於ては米國が比島の金を不可欠とする筈もなく、比島採金業は今後米人企業より邦人企業に移され、大東亞廣域圏の新なる經濟交流の構想の中に利用せらるべきであらう。

七

鑛鐵は金に比較すると遙に後れて開發せられたが之も顯著な増産を示し、近年前記四大輸出品、刺繡、木材に次いで輸出品となり、しかも木材との輸出額の開きを年々縮少して來た。今回の議會に於ける政府の發表によれば比島鐵鑛産額は一九三九年七十萬一千噸とある。同年より鐵鑛は麻、材木を凌駕して比島對日輸出品の首位に立つた。鐵鑛は全群島に亘つて埋藏され、現在盛んに採行されて居るのは南北兩カマリネス州及ミンダナオ東北端スリガオ州であるが、埋藏量の最大なのはスリガオで五億噸と稱せられる。比島の鐵鑛は米國にとつては全

く無用であり、寧ろ之あるがために敵性國日本の重要資源を提供し、比島に對する關心を昂めるのみであると感じたことであらう。比島に限らず馬來其他南洋の鐵鑛は採算の關係上歐米の製鐵業に利用することは困難であり、さりとて現地に製鐵業を興すことは在來の經濟關係の下にあつては不可能であつた。こう云つた事情が我國の製鐵原料の切迫する需要と相俟つて、南洋の鐵鑛は日本製鐵業に利用せられざるを得ざる必然性があり、比島の鐵鑛も其殆んど全部が日本に輸出せられた。今後我國の資本と技術により、他の鑛產物と共に比島の鐵鑛が積極的に開發せらるべきことは云ふを俟たない。

クローム鑛は比島鑛產物中最も米國の關心を唆り、比島との政治的關係の必要を更めて考慮せしめるに至つた尤なるものであらう。クロームは錆びない鋼及び各種特殊鋼の原料として近時益々その重要性を増し來つたものであるが、米國のクローム鑛床は規模小さく且つ又價格の高い時のみ採取せられる状態で、米國はその供給の殆んど全部を外國に仰がざるを得ない。一九三九年米國は主としてロヂンヤを含む南阿より、又玖馬、土耳其、ブラジル、比島等より三一七、五一一噸のクローム鑛を輸入し、比島は同年度七萬噸以上を米國に供給した。しかし國防計畫進捗と共に米國の需要は加速度に増大し、翌一九四〇年には比島は二十萬噸のクローム鑛を輸出し、その九割は米國に向けられ、少量が我國にも輸出せられた。クロームも亦比島の新進鑛產物で、比島關稅局の報告によればその積出高は左の如く激増して居る。

一九三五年

一、二九二噸

一九三九年

一二六、七四八噸

一九三七年

六九、八五五噸

一九四〇年

約二〇〇、〇〇〇噸

比島の最大のクローム鑛山はルゾン西海岸サムパレス州のマシノック(Mashinoc)にあり、埋藏量一千萬噸、世界一のクローム鑛山と稱せられるに至つた。品位三五%と云はれる。

銅は比島に於て古くより採掘され、其後久しく放棄されて居たが米領となつて小規模に復活し、更に最近顯著な増産を見た。(銅鑛輸出量一九三五年一一五噸、一九三七年一五、四一三噸、一九三九年三二、〇〇一噸)。主要鑛山は北部ルゾンの中央山岳州のマンカヤン(Mancayan)にあり、又、パナイ島のカピズ州には極めて良質の銅鑛が発見されて居る。一九三八年までは大半銅鑛のみを我國に輸出され、多少精選銅として米國に輸出されたが一九三九年より産額激増し、且銅鑛と精選銅とが地位顛倒し、大半は精選銅として輸出され、銅鑛と共に日本が主要輸出先となり、鐵鑛、麻、木材に次ぎ第四位の對日輸出品となつた。銅はクロームと異り米國の自給率頗る高いものである。しかし世界の消費量は歐洲戰の勃發と共に激増し、その三、四〇%以上を占むる米國は世界一の銅産額を以てしても相當不足を告げて居る。一九四一年度米國銅消費量は百二十萬噸に達し、其中國内産によつて賄ひ得るもの百八萬噸と傳へられる。米國は此不足を輸入によつて補ふため、中南米諸國より極力輸入すると共に比島の銅をも掻き集める必要を増大して居る。此事が從來主として我國に輸出せられた銅を比島政府に強制統制法を押し付けることによつて横奪せんと計畫した動機である。銅は大東亞共榮圈内に於て自給度の最も低いものであると考へられて居たが、今後は有望なる比島の銅鑛開發によつて從來の南北諸國への依存關係を脱却すべきである。

マンガン鑛も米國の産出が少く、その軍備擴張のためには年々約百萬噸のマンガン鑛を必要とし、うち九〇%は輸入せねばならない。主要供給源はアメリカ、印度及びソ聯であるが、その通商路が極度に窮屈となれる今

日、比島マンガン鑛は米國の最も期待をかけて居たものである。比島のマンガンも最近數年間に著しく増産したもので、一九三六年僅に二六〇噸のものが翌年には一躍二二、〇〇〇噸となり、一九三九年には二九、〇〇〇餘噸（他の資料には約五萬噸とあり）であつて、極小の一部が我國に輸出され、他は米國に輸出せられた。米國は比島マンガンを積極的に開發利用せんと計畫して居たときに大東亞戦争となつたのである。前述の如く米國は比島鑛を直接利用することは断念する外なかつたのであるが、マンガン含有鐵鑛に關する限りは相當大な關心を示して居た。現在比島主要マンガン産地はルゾン西北端北イロコス州で、其他各地に豊富な埋藏があり、殊にミンダオの鐵鑛床のマンガン含有量は約一千萬噸に達すと云はれる。

以上の外鉛、亜鉛、モリブデン、錫、タングステン等も發見されて居るが、少量の鉛を除いては未だ企業化されて居ない。石炭はアルバイ州に屬する一小島バタン及びバセプー島に採掘せられるが、年産數萬噸程度で現在殆んど問題とならず、比島は石炭の輸入國である。石油もセプー島、ルゾンのタヤバス州、レイテ島、ミンダオのコタバト州等に發見され、將來を期待せられるが、現在では未だ試掘時代を出でない。

八

かくして比島の輸出に占むる鑛産物の割合は最近めきめきと上昇した。一九四〇年には金銀も含んで比島鑛産物の全輸出は九千五十萬ペソに達し、前年に比べて八百五十萬ペソの増加を示した。その趨勢は昨年に至つて一層甚しく、手許にある資料（外務省通商局海外經濟事情）を瞥見しても、例へば一九四一年七月の比島鑛産物輸出は一〇、八二二千餘ペソで、前年同期よりも三、四九三千ペソ、殆んど五割近く増加し、八月は一〇、〇一六千

ペソ、前年同期に比し三、一〇六千ペソの増加である。又一九四一年上半期の卑金屬輸出を前年同期に比較すれば左の如く激増して居る。

鐵種別	數量		
	一九四一年上半期	一九四〇年上半期	
クローム鐵	一四五、四八三噸	九六、五六四噸	增 加 四八、九一九噸
鐵	七六四、九二一	六二四、六三八	一四〇、二八三
マンガン鐵	三四、五一一	二九、四二三	五、〇八八
銅	五、九八一	八七八	五、一〇三
銅選鐵	三、一一〇	二、四一八	六九二
金			
鐵種別	一九四二年上半期	一九四〇年上半期	增 加
クローム鐵	二、六五二、四七八比	二、〇八八、五一〇比	五六三、九六八比
鐵	三、六一五、二〇一	二、八八七、六三四	七二七、五六七
マンガン鐵	八八一、六九九	七四八、〇一四	一三三、六八五
銅	二八〇、九三五	二三一、七九六	四九、一三九
銅選鐵	一、一四九、〇七五	八九三、一五七	二五五、九一八
計 (多少の鉛鐵を含む)	八、五八三、〇六〇	六、八四九、一一一	一、七三三、九四九

一方農産物輸出にあつては例へば砂糖は一九四一年七月一、八三〇千ペソで、前年同期の殆んど四分の一となり、曾ての輸出の大宗が鑛産物、椰子製品、麻及綱索に抜かれ第四位となり、翌八月は回復し六、五六三千ペソとなつたが前年に比べると尙八〇餘萬ペソの減少である。鑛産物の輸出増加は實に目ざましきものがある。確實

に比島輸出の第一位を占めた。

以上述べた如く比島鑛産物の價値は最近急に米國をして刮目せしめるに至り、此等鑛産物を他の二三の必需農産物と共に確保せんとする希望が比島側の前述の要望と合致して完全獨立の實現は頗る明瞭を欠ぐに至つたのである。昨年五月二十九日に至りセイヤー比島高等辦務官による米國輸出統制法の比島に於ける強制實施聲明があり、その要許可輸出品目はマニラ麻、網索、コブラ、椰子油、クローム、銅、鐵、マンガンと傳へられた如き、比島資源價値の米國に於ける再認識の實狀を明に證據立てるものである。

かくて比島軍需資材に對する米國の欲求が他の政治的軍事的原因と共に、米國をして比島より手を引く最初の決心を鈍らせ、之を積極的に利用せんとする氣運醞釀しつゝあつた時に大東亞戰は勃發したのである。米國が上述の要望に促されて比島資源に對し抜くべからざる積極政策の態勢を整へざる間に大東亞戰となつたことは大東亞自給圏の立場より見て最も喜ばしきことの一つであらう。